

カキのフジコナカイガラムシの 新防除法「樹幹塗布法」

病害虫部

1 背景、目的

フジコナカイガラムシはカキの樹皮下や果実のへタ下などの隙間に好んで寄生するため、殺虫剤を散布しても薬液がかかりにくく、防除するのが難しい害虫です。近年は恒常的に多発しており、カキ生産者からは効果の高い新たな防除法の開発が強く求められています。そこで、フジコナカイガラムシに効果の高い新防除法「樹幹塗布法」を開発しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) カキの樹幹部に浸透移行性のある殺虫剤を塗布することで、フジコナカイガラムシを的確に防除できる「樹幹塗布法」を開発しました（図1）。
- 2) 樹幹塗布法は、①2～3月にバークストリッパー（水圧式の樹皮剥ぎ機）等で樹幹部の粗皮を剥ぐ、②1樹当たり20～40gのジノテフラン顆粒水溶剤と同量の水を混合した薬液を刷毛等で塗布する、の手順で行います（図2）。
- 3) 樹幹塗布法で、フジコナカイガラムシの寄生密度を低く抑えることができます（図3）。また、本処理法は周囲の他作物への農薬飛散の心配がありません。

3 主要なデータなど

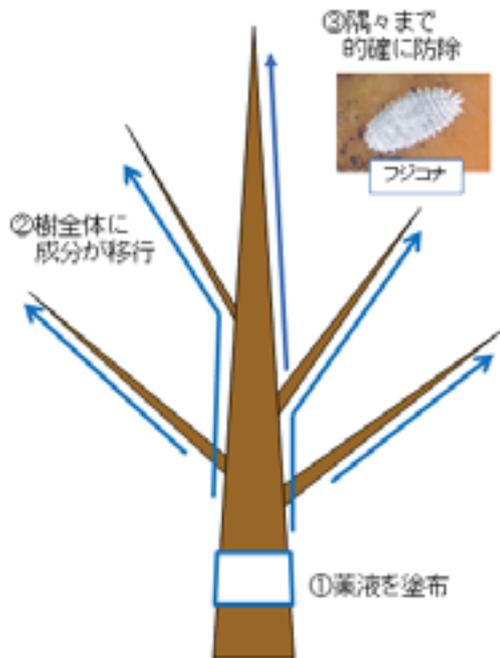


図1 樹幹塗布法の仕組み

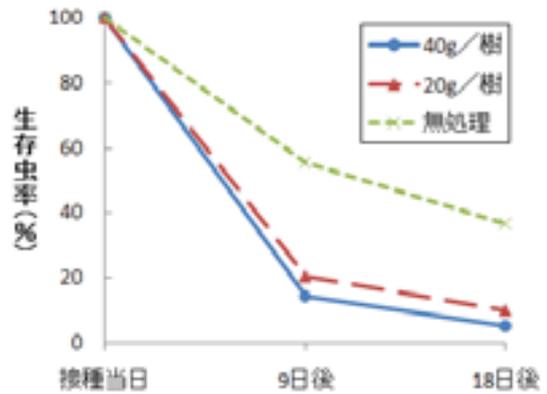
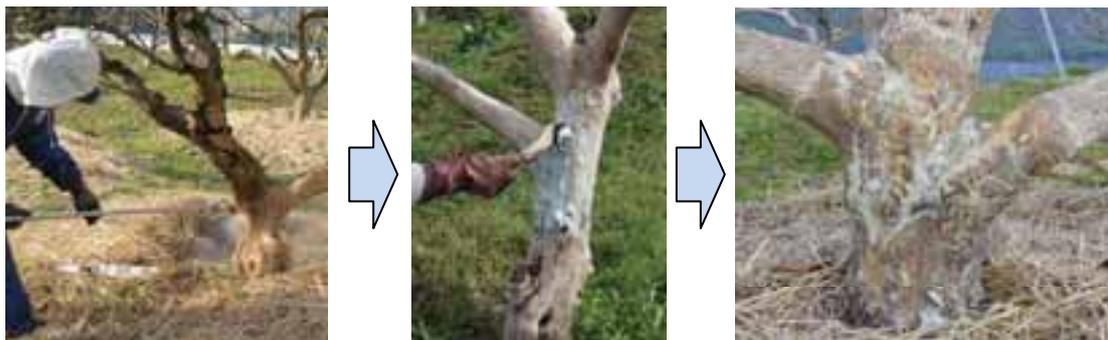


図3 樹幹塗布法のフジコナカイガラムシに対する防除効果

- 注) 1. 3月12日に同量の水と混合した薬液を塗布
 2. 4月21日にフジコナカイガラムシふ化幼虫を約100頭/新梢接種



①樹幹部の粗皮を丁寧に剥ぐ

②薬液を刷毛等で塗布する

③塗布後の様子

図2 樹幹塗布法の処理方法